

施策評価(平成30年度)

1 基本項目

基本目標	基本構想を推進するために
基本施策 1	行財政運営の充実
施策 34	行政運営
基本方針	
<p>市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進します。</p>	

2 事後評価結果

計画事業名	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	今後の 方向性
多様な市民参画の推進	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続
シティプロモーションの推進	計画どおり完了	A	B	A	レベルアップ
「羽村市史」の編さん	計画を見直し完了	A	A	A	現状のまま継続
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成・市民意識の高揚を図る取組みの推進	計画どおり完了	A	A	A	レベルアップ
公共施設の総合的な管理	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続
杏林大学との連携事業の充実	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続

3 施策評価結果

<p>施策34「行政運営」では、6事業について評価を実施した。</p> <p>進捗状況については、「多様な市民参画の推進」などの5事業は、「計画どおり完了」で、滞りなく履行されている。「『羽村市史』の編さん」は、資料編「考古」について、羽ヶ田上遺跡第7次・8次調査の内容確認が必要となったため、発行を次年度と見直したことから、「計画を見直し完了」と評価している。</p> <p>各事業における妥当性(必要性)、有効性(成果)については、すべてA(適切なもの)として評価している。</p> <p>効率性(手法)については、「シティプロモーションの推進」で、市外在住者を対象とした事業における定住促進ブランドの認知拡大について、チラシでは効果が限定的であったことから、B(課題があり、今後改善が必要なもの)と評価している。</p> <p>本施策の基本方針は、「市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進し、また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進する」ことであり、「多様な市民参画の推進」及び「杏林大学との連携事業の充実」においては、若者の市政参画を推進するための事業や、実際に大学生に事業に参画していただくことで、若者の発想やアイデアを市政参画に取り入れることができたほか、「『羽村市史』の編さん」においては、市史の編さん事業を進めるにあたり、市民、歴史関連施設からの資料提供の協力や、市史編さんの部会員、調査員等による調査・研究など、様々な主体と連携をしながら、羽村市史資料編「近世」「自然」を編集した。</p> <p>また、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成・市民意識の高揚を図る取組みの推進」においては、「節目イベント等の年間を通した気運醸成事業」、「事前キャンプ等誘致事業」など、様々な事業を、様々な主体と連携して取り組むことで、東京2020大会の気運醸成及び市民意識の高揚について一定の効果を得ることができたほか、「シティプロモーションの推進」においては、市外在住者を対象とした事業における定住促進ブランドの認知拡大について、チラシの配布場所確保や配布に係る経費増加等を踏まえた成果に課題はあるものの、「はむら家族プロジェクト」「暮らし子育て体験ツアー」に取り組み、参加者・申込者から肯定的な意見が多く寄せられ、運営に参画する人や事業者が出てくるといった事業効果が表れるなど、上記の取組みを通じて、施策に掲げた基本方針の達成に向けて、着実な推進が図られているものと評価する。</p>

1.基本項目		作成部署	市民生活 部			地域振興課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00 多様な市民参画の推進		不明	年	継続	自治事務(市独自)	直営
01			年			
02			年			
03			年			
04			年			
05			年			
関連課		企画政策課				
基本構想を推進するために		施策区分	34	行政運営	管理No.	164

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進します。
事業内容	若者から高齢者まで多世代にわたる市民の意見や、企業や事業所等の意見を聴く機会として、ワークショップ等による対話の場づくりを促進します。また、大学との連携や産学官金労言など多様な主体との連携により、市民参画による事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	審議会・懇談会・ワークショップ等	同左	同左	同左
	はむら若者”輝”会議 3回	同左 6回	同左 6回	同左 6回
	高校との連携事業の検討	都立羽村高校との連携事業の実施 5回	同左 5回	同左 5回
	プラチナ未来スクール 延べ110人	同左		

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	80H	1人	100H	1人	100H	1人	100H
主事・主任職	1人	40H	1人	100H	1人	100H	1人	100H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	5,285	870	450	450
人件費(係長職)	796	498	498	498
人件費(主任・主事職)	134	333	333	333
総事業費(合計)	6,215	1,701	1,281	1,281
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源	4,800	280		
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	1,415	1,421	1,281	1,281
財源内訳(合計)	6,215	1,701	1,281	1,281

③コスト計算

ア 市民 55,710 人における1人あたりのコストは、 31 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 の コストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

②活動実績

- 「はむら若者“輝”会議」を7回実施、また、若者の参画促進個別プロジェクトを実施
- 都立羽村高等学校連携事業「はむらまちづくりワークショップ」の実施
- 「プラチナ未来スクール」(ファシリテータ養成講座)を7回実施

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	870		870	809	93.0%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	100 H	人	100 H
主事・主任職	1人	100 H	人	100 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
○はむら若者“輝”会議6回 ○都立羽村高等学校との連携事業の実施 ○プラチナ未来スクール(市長会助成事業)の実施	⇒ ○はむら若者“輝”会議7回54人、個別プロジェクト1回14人 ○都立羽村高等学校との連携事業の実施2回261人 ○プラチナ未来スクール(市長会助成事業)の実施7回86人

Check【評価】

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥当性() <input type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input checked="" type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効率性() <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有効性() <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input checked="" type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

市民活動基本計画の策定事業に沿ってワークショップ等の事業を実施することにより、対話の場づくりを促進し、多様な市民参画の推進を図ることができた。

Action【改善】

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

【今後の取組方針】

各種団体と調整・連携を図り事業を実施していく。

1.基本項目		作成部署		企画総務部 シティプロモーション推進課			
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト	
00 シティプロモーションの推進		年					
01	はむら家族プロジェクト	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○	
02	魅力発信市民記者	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○	
03	公式PRサイト運用	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○	
04	シティプロモーション研修	平成 29 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○	
05	はむりんイベント出演	平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○	
関連課	課税課						
基本構想を推進するために		施策区分	34	行政運営	管理No.	165	

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進します。
事業内容	市の人口の年齢構成で減少傾向にある若い世代の定住につなげるため、若い世代が感じている市独自の暮らしやすさ、子育てのしやすさなどの魅力を戦略的に発信します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	ブランド化の推進	同左	同左	同左
	はむら家族プロジェクトの実施	同左	同左	同左
	暮らし子育て体験ツアーの試行開催 1回	暮らし子育て体験ツアーの開催 1回	同左 1回	同左 1回
	魅力発信市民記者事業の推進	同左	同左	同左
	公式PRサイトの運用	同左	同左	同左
	シティプロモーション研修の実施	同左	同左	同左
	はむりんのイベント出演 89件 (平成29年12月末現在)	同左	同左	同左
	はむりんを活用したPRグッズの展開 新規承認件数 4件 (平成29年12月末現在)	同左	同左	同左
オリジナルナンバープレートの作成・交付 1,000枚	オリジナルナンバープレートの交付			

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	300 H	1 人	300 H	1 人	300 H	1 人	300 H
主事・主任職	1 人	200 H	1 人	200 H	1 人	200 H	1 人	200 H

②事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	11,262	9,451	9,451	9,451
人件費(係長職)	1,492	1,492	1,492	1,492
人件費(主任・主事職)	666	666	666	666
総事業費(合計)	13,420	11,609	11,609	11,609
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源	3,000			
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	10,420	11,609	11,609	11,609
財源内訳(合計)	13,420	11,609	11,609	11,609

③コスト計算

ア 市民 55,710 人における1人あたりのコストは、 208 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 のコストは 円

※ 対象者:

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無 <input checked="" type="checkbox"/>	有 <input type="checkbox"/>	指示事項・改善内容
--	-------------------------------	-----------

②活動実績

「羽村市シティプロモーション基本方針」に基づき、「はむら家族プロジェクト」「暮らし子育て体験ツアー」「魅力発信市民記者」「公式PRサイト運用」「シティプロモーション研修」「はむりんのイベント出演」など、主な対象とする「未就学児を育てる20代・30代の共働き世帯」の定住人口の増加につなげるため、「ブランド化の推進」「戦略的・継続的な情報発信」「シビックプライドの醸成」に資する事業を展開した。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	9,451		9,451	9,293	98.3%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	300 H	1人	750 H
主事・主任職	1人	200 H	1人	500 H

④事業量(活動量)

<p style="text-align: center;">実施計画</p> <p>○はむら家族プロジェクト ○暮らし子育て体験ツアー ○魅力発信市民記者事業 ○公式PRサイト運用 ○シティプロモーション研修 ○はむりんのイベント出演 ○はむりんを活用したPRグッズの展開 ○オリジナルナンバープレートの交付</p>	<p style="text-align: center;">今年度実績</p> <p>○はむら家族プロジェクト(参加者1,967人) 家族写真撮影会3回(参加家族20組78人・申込み家族25組96人) はむら家族ミーティング5回(参加者207人) #愛情はむら写真展1回(参加者1,405人) くぼたまさと工作ショー1回(参加者277人・申込み830人) インターネット広告3回(表示4,374,495回) ○暮らし子育て体験ツアー 参加者18人・申込み32人 ○魅力発信市民記者事業 編集会議16回、臨時会議3回、市民記者交流イベント2回、記事執筆8本 ○公式PRサイト アクセス18,181件 ○シティプロモーション研修 実践研修10回、集合研修6回 ○はむりんのイベント出演 100件 ○はむりんを活用したPRグッズの展開 新規承認件数 5件 ○オリジナルナンバープレートの交付 299枚</p>
--	---

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手率性) <input type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市外におけるプロモーション媒体として、チラシは、配布場所の確保や配布に係る経費の増加等に課題があり、さらに効果は限定的であった。)	B
有(成果性) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

人口減少・少子高齢化が進む中、全住民福祉の増進を図ることを目的に、将来の羽村市を支える若い世代の転入・定住を促進するため、「羽村市シティプロモーション基本方針」に基づき、市民や事業者等と連携しながら各事業を実施することができた。

市民を対象としたシビックプライドを醸成する事業では、参加者が運営に参画するなどの効果が表れている。市外在住者を対象としたブランド化を推進する事業では、主なプロモーション媒体をチラシとしたが、配布に係る場所の確保や経費の増加等に課題があり、さらに効果は限定的であったため、プロモーション活動を改善する必要がある。

Action(改善)**8. 今後の方向性**

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

若い世代に転入・定住の行動を起こさせるためには、まず、移住・定住促進ブランド「東京で子育てしやすいまち」の認知拡大が必要である。そのためには、年間を通じてインターネット広告や雑誌広告を活用したり、広告代理店へ委託したりするなど、プロモーション活動をより効果的なものに改善したうえで取り組むことが結果的に費用対効果の面でも有効であり、本事業の目標達成につなげることができる。

【今後の取組方針】

シティプロモーションの推進は、「オールはむら」で取り組んでいくため、引き続き、事業を実施する中で市民や事業者等との連携を推進する。

若い世代の転入を促進するためには、まず、市外の特定地域に移住・定住促進ブランドを浸透させていくことが肝要であるため、インターネット広告や広告代理店を活用するなど、効果的なプロモーション活動を展開する。

1.基本項目	作成部署	企画総務部		市史編さん室		
事業名	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト	
00「羽村市史」の編さん	平成 25 年	その他	自治事務(市独自)	直営	○	
01	年					
02	年					
03	年					
04	年					
05	年					
関連課						
基本構想を推進するために	施策区分	34	行政運営	管理No.	166	

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進します。
事業内容	羽村の戦後の歩みを中心に、「羽村町史」の内容を踏まえつつ、新たな調査・研究の成果を盛り込んだ原始から現代に至る通史に自然や民俗分野を加えた「羽村市史」(本編)を刊行します。また、調査・研究の過程で得られた史料等を資料編として刊行するとともに、市民に還元するための講座を開催します。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市史編さん本部設置要綱、羽村市史編さん委員会設置要綱

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	市史編さん本部会議 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回
	市史編さん委員会 3回	同左 3回	同左 3回	同左 3回
	各部会調査活動	同左	同左	同左
	資料編原稿執筆・印刷製本 ・『羽村市史 資料編 中世』 ・『羽村市史 資料編 近現代図録』	同左 ・『羽村市史 資料編 考古』(仮) ・『羽村市史 資料編 近世』 ・『羽村市史 資料編 自然』	同左 ・近現代資料編 ・民俗編	同左 ・社寺・文化財・人物編
	市史関連講座の開催 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	1,860 H	1人	1,860 H	1人	1,860 H	1人	1,860 H
主事・主任職	1人	1,860 H	1人	1,860 H	1人	1,860 H	1人	1,860 H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	32,603	36,273	30,736	26,967
人件費(係長職)	9,247	9,247	9,247	9,247
人件費(主任・主事職)	6,192	6,192	6,192	6,192
総事業費(合計)	48,042	51,712	46,175	42,406
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	48,042	51,712	46,175	42,406
財源内訳(合計)	48,042	51,712	46,175	42,406

③コスト計算

ア 市民	55,710	人における1人あたりのコストは、	928	円		
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円		
ウ 成果(物)	羽村市史資料編	の 出来高	3,000 冊	における1冊 のコストは	17,237	円

※ 対象者:

Do【実行】

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	資料編の「考古」については、作業量の増加や、羽ヶ田上遺跡第7次・8次調査(羽村東小学校東側)の遺跡の報告書の内容を確認する必要が生じたため、刊行を来年度に繰り延べた。今後、資料編「考古」に反映できる進行管理を行っていく必要がある。

②活動実績

市史の刊行のため、市史編さん部会による調査活動を行った。また、市史編さん本部会議、市史編さん委員会を開催し、意見を交換しながら、平成30年度刊行予定であった3つの資料編のうち、「近世」と「自然」を刊行することができた。こうした調査・研究の過程で得られた史料等を、市民に還元するため、「羽村市域の江戸時代を見直す」と題し、羽村市史関連講座を開催した。そのほか、市史編さん事業を広く周知するため「羽村市史編さんだより」を発行するとともに、平成30年度から羽村市史資料編「中世」と「近現代図録」を羽村市役所と羽村市郷土博物館で販売した。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	36,273	▲ 6,683	29,590	28,273	95.5%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	1,860 H	1人	1,860 H
主事・主任職	1人	1,860 H	1人	1,860 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
○市史編さん本部会議 2回 ○市史編さん委員会 3回 ○羽村市史資料編の印刷製本「考古」・「近世」・「自然」 ○市史関連講座 1回 ○「羽村市史編さんだより」の発行 年4回 ○羽村市史資料編の頒布 120冊	○市史編さん本部会議 4回(7/19、10/16、1/24、3/7) ○市史編さん委員会 3回(9/25、11/22、2/14) ○羽村市史資料編の印刷製本「近世」「自然」発行 ○市史関連講座 1回(12/1) ○「羽村市史編さんだより」の発行 4回(13号～16号) ○羽村市史資料編の頒布 241冊

Check【評価】

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法性) <input type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果性) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input checked="" type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

市史の編さん事業を進めるにあたり、市民、歴史関連施設からの資料提供の協力や、市史編さんの部会員、調査員等による調査・研究など、様々な主体と連携をしながら、羽村市史資料編「近世」「自然」を編集することができた。
 また、市民向けに市史関連講座を開催し、これらの調査・研究の成果を広く還元することができた。

Action【改善】

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

【今後の取組方針】

市史の編さんについては、引き続き、市民、歴史関連施設から資料提供の協力を得ながら進めていく。また、市史関連講座や羽村市史資料編の頒布など市史関連の情報提供は、市民の方へ広報や市公式サイトのほか、市役所のデジタルサイネージの活用や、歴史関連施設や大学など、歴史に関係のある施設へ重点的なPRを実施していく。

平成30年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	企画総務部 東京オリンピック・パラリンピック準備室			
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成・市民意識の高揚を図る取組みの推進	平成 25 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○
01	節目イベント等の年間を通じた気運醸成事業	年				
02	事前キャンプ等誘致事業	年				
03	事前キャンプ候補地ガイドへの掲載による情報発信	年				
04	オリ・パラ通信の広報はむらへの掲載等による情報発信	年				
05	広域的取組み	年				
関連課						
基本構想を推進するために		施策区分	34	行政運営	管理No.	167

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進しま
事業内容	東京2020大会の気運醸成や市民意識の高揚を図るため、事前キャンプ地としての誘致活動などに取り組むとともに、市民団体など多様な主体と連携した取組みを進めます。また、西多摩地域などの自治体と連携し、オリンピック・パラリンピックのレガシーを創出する取組みを進めます。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	節目イベント等の年間を通じた気運醸成事業の実施	同左	同左	同左
	事前キャンプ等誘致事業の実施	同左	同左	事前キャンプ・交流事業の実施
	事前キャンプ候補地ガイドへの掲載による情報発信	同左	同左	同左
	オリ・パラ通信の広報はむらへの掲載等による情報発信	同左	同左	同左
	検討委員会の開催 2回	同左	同左	同左
	西多摩地域広域連携によるホスタウン登録申請	同左	広域的取組みの実施	同左

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	1,860 H	2 人	1,860 H	2 人	1,860 H	2 人	1,860 H
主事・主任職	1 人	1,860 H	1 人	1,860 H	1 人	1,860 H	1 人	1,860 H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	10,100	10,100	10,100	10,100
人件費(係長職)	9,247	18,493	18,493	18,493
人件費(主任・主事職)	6,192	6,192	6,192	6,192
総事業費(合計)	25,539	34,785	34,785	34,785
国庫支出金				
都支出金	5,000	5,000	5,000	5,000
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	20,539	29,785	29,785	29,785
財源内訳(合計)	25,539	34,785	34,785	34,785

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<p>○交渉を進めている中央アジアの国との関係を丁寧につなぎ、平成30年度中に開催されるイベントでの合宿はもとより、東京2020大会時においても合宿地として選択されるよう、羽村市の魅力のPRに積極的に努めること。また、合宿が決まった際には、市民との交流等についても検討するなど、東京2020大会の気運醸成に繋がるオール羽村での取組みとして進めること。</p> <p>○11月にはキルギス共和国男子柔道チームによる東京2020大会の視察を兼ねた事前キャンプの受入れにおける成果や課題を整理し、次年度に開催される「世界柔道選手権大会」、さらに2年後の「東京2020大会」につなげていくとともに、パラリンピック競技団体の招致にもつながるよう、同国との関係を丁寧につないでいくこと。</p> <p>○大会気運をさらに醸成するためには、商工会などとも連携し、オール羽村の体制で市民が主体的に参加できる取組みを進めること。</p>

②活動実績

節目イベント等の年間を通した気運醸成事業については、東京2020パラリンピックを応援しよう！2年前イベント in 羽村や第71回羽村市市民体育祭へのオリンピック・パラリンピック招致事業など、様々な機会をとらえて実施した。

また、キルギス共和国男子柔道チームによる「東京2020大会」の視察を兼ねた「柔道グランドスラム大阪2018」事前キャンプの受入れを行うとともに、今後開催される「2019世界柔道選手権」・「東京2020大会」での事前キャンプの受入れについて交渉等を継続して実施した。

その他、事前キャンプ候補地ガイドへの掲載によるPRの実施や、広報はむら毎月15日号における「オリ・パラ通信」掲載によるオリンピック・パラリンピック関連情報の提供などを行った。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	10,100		10,100	10,074	99.7%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	1,860 H	2人	1,860 H
主事・主任職	1人	1,860 H	1人	1,860 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
<p>○節目イベント等の年間を通した気運醸成事業の実施</p> <p>○事前キャンプ等誘致事業の実施</p> <p>○事前キャンプ候補地ガイドへの掲載による情報発信</p> <p>○オリ・パラ通信の広報はむらへの掲載等による情報発信</p> <p>○検討委員会の開催 2回開催</p> <p>○西多摩地域広域連携によるホストタウン登録申請</p>	<p>⇒</p> <p>○節目イベント等の年間を通した気運醸成事業の実施 11回</p> <p>○事前キャンプ等誘致事業の実施(キルギス共和国男子柔道チームの受入れ)</p> <p>○事前キャンプ候補地ガイドへの掲載による情報発信(東京都、東京2020組織委員会、全国知事会のウェブサイト)</p> <p>○オリ・パラ通信の広報はむらへの掲載等による情報発信 12回掲載</p> <p>○検討委員会の開催 3回開催</p> <p>○西多摩地域広域連携によるホストタウン登録申請</p>

Check【評価】

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目		課長評価
妥 当 性 (必 要 性)	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効 率 性 (手 法)	<input checked="" type="checkbox"/> 最少の人員費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有 効 性 (成 果)	<input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input checked="" type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input checked="" type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

「節目イベント等の年間を通じた気運醸成事業」、「事前キャンプ等誘致事業」など、様々な事業を、様々な主体と連携して取り組むことで、東京2020大会の気運醸成及び市民意識の高揚について一定の効果を
得ることができた。

また、「検討委員会の開催」、庁内研修(集合研修)の実施による全庁的な取組みの推進や、「西多摩地域広域連携によるホストタウン登録申請」の調整等による広域連携に向けた取組みの推進を図ることができた。

Action【改善】**8.今後の方向性**

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

市民や団体、事業者との連携した取組みについて、少しずつ実現できてはいるが、さらなる大会の気運醸成のため、オール羽村の体制で市民が主体的に参加できる取組みの実現が必要である。

【今後の取組方針】

東京2020大会開催まで残り1年を切る年であるため、大会開催の気運醸成の総仕上げとして、節目イベントを含む各種気運醸成事業の充実を図るとともに、事前キャンプ誘致の取組みでは、誘致予定のキルギス共和国男子柔道ナショナルチームが、「2019世界柔道選手権」において最高のパフォーマンスを発揮できるよう、しっかり支援していく。さらに、同国を相手国としたホストタウン登録に向けた取組みも開始する。

また、西多摩8市町村連携事業(米国を相手国としたホストタウン登録に向けた取組み、西多摩フェアにおけるオリンピック・パラリンピック関連ブース出展事業など)も継続していく。

将来の羽村市にとって、素晴らしいレガシーとして残していけるよう、オール羽村の体制により取組基本方針に沿った取組みを推進していく。

1.基本項目

事業名		作成部署	都市建設部			建築課
00 公共施設の総合的な管理		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
		平成 # 年	継続	自治事務	直営	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課	各施設所管課					
基本構想を推進するために		施策区分	34	行政運営	管理No.	168

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進し
事業内容	「公共施設等総合管理計画」や「公共建築物維持保全計画」に沿って、市民や団体、事業者の意見聴取に努めながら、長寿命化や大規模改修、整理統合などの手法により、最適化および財政負担の軽減、平準化を図り、公共施設の総合的な管理を推進します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等				【大規模改修工事】 設計:コミュニティセンター、三中、一中体育館
	【耐震診断】 診断:加美会館、富士見斎場		【耐震診断】 診断:栄会館、中央館、三矢会館、消防団車庫(第五分団、第六分団)、産業福祉センター	【同左】 診断:神明台会館、富士見平会館、小作本町会館 【防水、外壁改修工事】 工事:中央館、三矢会館
	【非構造部材対策調査】 調査:ゆとろぎ、図書館、スイミングセンター			
	【外壁改修工事】 工事:いこいの里			
		【特別支援学級整備工事】 羽村西小	【体育館床改修工事】 工事:武蔵野小	
	【学校トイレ改修工事】 設計:富士見小、二中	【同左】 I期工事:富士見小	【同左】 II期工事:富士見小 I期工事:二中	【同左】 III期工事:富士見小 II期工事:二中 設計:羽村東小、松林小
	【防音機能復旧工事】 設計:一中	【同左】 I期工事:一中	【同左】 II期工事:一中	【同左】 設計:富士見小
			【学校防水改修工事】 工事:羽村西小、富士見小(外壁含)	
			【空調改修工事】 工事:松林小、武蔵野小	
			【校庭整備改修工事】 設計:二中	【同左】 工事:二中
			【プール改修工事】 工事:栄小、二中	【同左】 工事:富士見小
	【動物公園改修工事】 工事:管理事務所、外柵等	【同左】 工事:管理事務所、外柵等		
		【防水改修工事】 工事:区画整理事業用建物	【同左】 工事:消防団車庫(第四分)	
			【空調等改修工事】 設計:市役所本庁舎(東・西)、車庫棟 工事:車庫棟	【同左】 工事:市役所本庁舎(東・西)
			【空調改修工事】 設計:五ノ神会館、郷土博物館、シルバー人材センター、産業福祉センター 工事:郷土博物館	【同左】 工事:五ノ神会館(防水、外壁含)、シルバー人材センター、産業福祉センター
		【ボイラー改修工事】 設計:いこいの里	【同左】 工事:いこいの里	

	【エレベーター等改修工事】 工事:スポーツセンター			
			【トイレ等改修工事】 設計:富士見斎場	【同左】 工事:富士見斎場
			【市営住宅防水、外壁等改修工事】 工事:美原団地、栄町団地	【市営住宅外壁改修工事】 工事:間坂団地

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	480H	1人	480H	1人	480H	1人	480H
主事・主任職	2人	960H	2人	960H	2人	960H	2人	960H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	203,721	423,052	747,593	885,128
人件費(係長職)	2,387	2,387	2,387	2,387
人件費(主任・主事職)	6,392	6,392	6,392	6,392
総事業費(合計)	212,500	431,831	756,372	893,907
国庫支出金	38,757	219,478	124,933	46,578
都支出金		5,148	5,148	5,417
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	173,743	207,205	626,291	841,912
財源内訳(合計)	212,500	431,831	756,372	893,907

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
ウ 成果(物) の 出来高 のコストは 円
※ 対象者:

Do【実行】

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無 <input type="checkbox"/>	有 <input checked="" type="checkbox"/>	指示事項・改善内容
		オリンピック需要に伴い、人手不足の深刻化などが懸念されている。市が発注する工事にも影響が及び、不調となる事例が散見されることから、事業の遅延回避のため、早期着手を基本として取り組むとともに、関係部署における総合調整等を図り、綿密に報告、連絡を行い対応を図ること。

②活動実績

学校を所管する関係部署と綿密な調整を図り、空調およびトイレ改修工事を実施している。

- 空調改修工事(一中)は、平成30年10月12日に完了
- トイレ改修工事(富士見小)は、平成30年10月12日に完了
- 特別支援学級整備工事(西小)は、平成30年8月29日に完了
- 動物公園改修工事は、平成30年8月31日に完了
- 屋上防水等改修工事(西口土地区画整理事務所)は、平成30年8月22日に完了

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	423,052	▲ 23,260	399,792	382,107	95.6%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	480 H	1人	480 H
主事・主任職	2人	960 H	2人	960 H

④事業量(活動量)

実施計画
学校を所管する関係部署と綿密な調整を図り、空調およびトイレ改修工事を実施する。 ○空調改修工事(一中) ○トイレ改修工事(富士見小) ○特別支援学級整備工事(西小) ○動物公園改修工事 ○屋上防水等改修工事(西口土地区画整理事務所)

⇒

今年度実績
学校を所管する関係部署と綿密な調整を図り、空調およびトイレ改修工事を実施している。 ○空調改修工事(一中)は、平成30年10月12日に完了 ○トイレ改修工事(富士見小)は、平成30年10月12日に完了 ○特別支援学級整備工事(西小)は、平成30年8月29日に完了 ○動物公園改修工事は、平成30年8月31日に完了 ○屋上防水等改修工事(西口土地区画整理事務所)は、平成30年8月22日に完了

Check【評価】

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法性) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果性) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

公共施設の長寿命化対策や利用者が安全快適に利用できる環境を整備するため、公共施設等総合管理計画等に基づき改修工事を実施する。

工事を実施する際には、施設を利用しながらの工事となるため、資材搬入、施工時の騒音等について、関係部署と調整し、施設利用者の安全を確保する。

Action【改善】**8. 今後の方向性**

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】**【今後の取組方針】**

公共施設の長寿命化や大規模改修、整理統合などの手法により、財政負担の軽減、平準化を図り、公共施設の総合的な管理を推進し、改修工事等を計画的に取り組む。

- 学校トイレ改修工事(富士見小 2期、二中 1期)
- 耐震診断(栄会館、中央館、三ツ矢会館、第五分団車庫、第六分団車庫)
- 空調改修(設計)(庁舎、五ノ神会館、郷土博物館、シルバー人材センター)
- 防音機能復旧工事(一中 2期)
- 学校防水等改修工事(西小、富士見小(外壁含む))
- 体育館床改修工事(設計)(武蔵野小)
- プール改修工事(二中)
- 市営住宅防水・外壁等改修工事(栄町団地)等

平成30年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	企画総務部			企画政策課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00 杏林大学との連携事業の充実		平成 22 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本構想を推進するために		施策区分	34	行政運営	管理No.	169

2.事業の概要

施策の基本方針	市民と行政が、それぞれの役割を担い、ともに課題解決に取り組んでいくため、わかりやすい行政情報の提供と行政への市民参画を推進します。また、広域連携や産学官金労言など多様な主体との連携を推進するとともに、新たな行政需要に的確に対応した行政運営を推進します。
事業内容	杏林大学教員の知識と学生の柔軟な発想や行動力を市のさまざまな施策に取り込み、市のにぎわいと活力の創出につなげていきます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.実施計画

Plan【計画】	平成29年度(現況)	3か年計画		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容 事業量等	連携協議会 年2回	同左 年2回	同左 年2回	同左 年2回
	連携事業 40事業	同左 40事業	同左 40事業	同左 40事業
	杏林大学、羽村市・三鷹市・八王子市による連携事業の検討・実施	同左	同左	同左
	【地(知)の拠点整備事業最終年度】次年度以降の連携手法検討			

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成29年度(現況)		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2 人	732 H	2 人	732 H	2 人	732 H	2 人	732 H
主事・主任職	人	H	人	H	人	H	人	H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成29年度(現況)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業費	14			
人件費(係長職)	7,278	7,278	7,278	7,278
人件費(主任・主事職)				
総事業費(合計)	7,292	7,278	7,278	7,278
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	7,292	7,278	7,278	7,278
財源内訳(合計)	7,292	7,278	7,278	7,278

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の 出来高 のコストは 円

※ 対象者:

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

②活動実績

羽村市と杏林大学との連携事業については46事業を計画し、大学との協議の上、多くの事業を杏林大学の教員・学生と連携して実施したことで、市政に杏林大学の教員の知識と学生の発想・行動力を取り込むことができた。

③投入実績

決算の内訳 (単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費					-

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	732 H	2人	732 H
主事・主任職	人	H	人	H

④事業量(活動量)

実施計画	⇒	今年度実績
○連携協議会 年2回 ○連携事業 40事業 ○杏林大学、羽村市・三鷹市・八王子市による連携事業の検討		○連携協議会 年2回 ○連携事業 46事業 ○杏林大学、羽村市・三鷹市・八王子市による連携事業の検討

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥当性(必要性) <input type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効率性(手法) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input checked="" type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有効性(成果) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

杏林大学との連携は、市域に大学がなく、若年層の市政への参画が少ない羽村市において欠かすことができないものであり、今年も学生が持つ発想・行動力を活かし、市に賑わいと活力を生み出すことができた。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

【今後の取組方針】

若者の市民参画は行政運営に必要な不可欠な取組みであり、様々な分野における連携事業のさらなる深化を目指し、取組みの充実を図っていく。杏林大学のキャンパスは平成28年度から三鷹市に集約されていることから、地理的要因による連携の停滞がないよう留意していく。